

第9回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部

日時：平成28年4月20日（水） 10：30～11：30

場所：尼崎市役所北館4階 会議室4-1

1. 開会

座長： 本日は新年度1回目ということもあり、まずは、事務局から、昨年度に、総合戦略を策定するにあたり行った分析をもとに、本市の人口動態の現状や、本市の「子育て世帯の流出の現状と原因」についての説明ののち、新年度（平成28年度）予算がどのように戦略パッケージに反映されたのかの報告と今年度の総合計画の推進体制案を提出させていただき、皆さんと課題を共有したうえ意見を交換していきたい。それでは、「本市の人口動態について」及び「市民意識調査から見る子育て世帯の流出の現状と原因」について、事務局から説明をお願いします。

2. 【付議案件1】本市の人口動態について

【付議案件2】市民意識調査から見る「子育て世帯の流出の現状と原因」について
事務局より資料①、②説明

座長： ご意見があれば、自由に発言して頂きたい。

座長： 先日法人保育園会の集まりに参加した際に、待機児童についての話題になった。園田は今まで待機児童が多かったが、対策を行った結果減少傾向にあるとのこと。保護者にとっては、大変良いことであるが、一方で、0歳児保育に空きが出ているらしい。直接的に関連しているかどうか、調査が必要だが、少子化により子どもの減少傾向が続けば、保育園側からすると経営がなりたたなくなるという意見もあった。

本市の長期的な人口目標である人口ビジョンに大きな影響を与えているのは、転出入の差である社会増減よりも出生と死亡の差である自然増減なので、希望する数の子どもを産み育てることを応援しないといけない。引き続き人口分析を行いながら、有効な対策を講じなければならない。

座長： 報告では南部より北部の方がファミリー世帯の転出が多いとのことであったが、転出超過は全体的な傾向なのか。

事務局： 直近でいえば、中央地区は転入超過である。兵庫県立総合医療センターが創設された影響などが考えられるが、もう少し分析する必要があると考えている。

座 長： 病院などは、当直の仕事があるので、短期的に職員が流入することも考えられる。現在はファミリー世帯というように年齢をターゲットにしているが、例えば、田舎が嫌いな人に田舎に移住してもらうことは困難であるが、田舎が好きな人を呼び込む取組は容易であるように、価値観が多様化しているので、どのような方が本市に居住していただくターゲットにするのかを明確にしたうえで、政策を考えないといけない。

セレブを望む人を尼崎に移住させることを目指すのではなく、チャレンジや学び経験を応援するまちをPRし、そういった人をターゲットにしたい。これからの時代に求められる人材を育成するために本市の総合戦略は、①聖トマス大学の跡地で行う「学び」②ABiZで行う「仕事」や③城内地区の整備を含めた交流人口や「シビックプライド」といったように整理し、拠点化していくこととした。

座 長： 続いて総合戦略の基本目標の②「しごと」に関する項目の数値目標が未定であったので、確定の報告と今年度の政策パッケージが新年度予算を反映に改められているので、事務局から説明をお願いします。

3. 【付議案件3】基本目標「経済の好循環と『しごと』の安定を目指す」の数値目標について

【付議案件4】総合戦略政策パッケージの加筆修正について

事務局より資料③、④説明

座 長： 確認事項やご意見があれば発言して頂きたい。

委 員： 戦略パッケージの改定については、今年度新たにどのような取組を追加したのか、わかりやすい一覧をつけるなどの工夫をしてもらいたい。

座 長： 最後に今年度以降の総合計画及びアクションプラン、総合戦略の策定や推進に関する体制について事務局から説明をお願いします。

4. 【付議案件5】総合計画及び総合戦略の策定・推進に係る体制について

事務局より資料⑤説明

座 長： 先ほども発言したとおり他都市から定住・転入の促進で人口が増えるわけではなく、自然増減の方が影響が大きいことはわかっている。しかしながら、アンケート調査における転出理由の分析調査結果を見れば、「治安」「マナー」「教育」「環境」などまちのイメージの総合点が大きく影響していることもわかっており、今

後プロジェクトチームを立ち上げ全体的に検討する必要があると考えている。

「定住・転入」・「仕事」・「超高齢社会」を軸に本日配布した「未来予想図」（たたき台）は、若手職員や一部の市民が協力していただいて作成したものである。今後の課題としては、本当に行政として取り組む必要があることと、こうなったら面白いなというものが、等しく掲載されているため、混乱を招く恐れがある。現段階でいえば、おもしろさを優先した「未来予想図」になっている感じがあるので、これから作成する完成版では、掲載内容も含めまだまだブラッシュアップをしなければならない。また、ABiZが入っていないなど一部施策が記載されていないものや紹介できていないものもある。

事務局： 裏面の記事に ABiZ の紹介は記載しているが、イラストの掲載等市民とのワークショップの中でブラッシュアップしていきたい。

座長： 全体的にはたいへん夢のある記事が播かれていると感じるので、これから市民の皆さんとしっかりと作りこんでほしい。

後期まちづくり基本計画の策定等については、PDCA の計画部分の P が重すぎるように感じている。残りの部分もしっかりと力を入れられる形を目指す必要がある。

今までの話し合いの中でなにかあればご意見を頂きたい。

座長： 全戸配布する際のサイズについてはどれくらいを予定しているのか。

事務局： 現在のたたき台の A3 版の倍の大きさの A2 版で配布予定である。

委員： 現段階の「未来予想図」（たたき台）は市民に配られているのか。

委員： 見る人によれば、少しふざけているように受けとめられないか。また、これから本当に取り組もうと思っていることも記載されているので、混乱を招く恐れがあるので、注意が必要であると感じる。

座長： あくまで今現在の「未来予想図」（たたき台）は声かけ（ツール）として、これから正式に作成する「未来予想図」の材料として使用を考えている。完成版には、公共施設の耐震化や市民活動がどのように支えられているということを掲載してほしい。狙いは、2045 年に向けて行政・市民がやるべきことを一緒になって考え、播き、市民と共有することである。希望を地図に落とすのではないということを明確にしないといけない。

委員： 策定を通じて職員はもちろん市民一人ひとりに自分達がなにをしないといけないということを伝える必要がある。

座長： 行政が一方的につくるのは、あまりよくないと考えており、今の「未来予想図」（たたき台）はあくまで面白く市民に伝えるツールとして利用し、市民に興味を持ってもらうためのものである。今私たちが、なぜ色々な取り組みをしているのかを伝わるようにしないといけない。総合計画読本として作成した「45人のあまがさき」は他都市でも評価が高い。

今後も随時みなさんからご意見を伺いながらよりよいものをつくっていきたい。

事務局： 「未来予想図」（たたき台）は、この創生本部においてご意見を頂いたのち議会に報告することを考えている。その際は、完成品ではなく、あくまでツールとして利用し、今後の「未来予想図」の参考材料にするということをしっかりと伝えるとともに、ワークショップの参加を促すために、市民募集等の必要があることから、HP等に掲載する予定である旨をあわせて報告する。

座長： これはあくまでツールということを明確にして HP等に掲載するように。ほかにご意見があれば、発言をして頂きたい。

顧問： 本日説明にあったアンケート調査等は総合戦略の策定にあたり実施したものであるが、これでようやくわがまちの輪郭がわかってきたと感じている。若手職員には特にこの結果等についてしっかり周知していただき、日々の事務において自分が何故今このような取り組みを行っているのかを理解する必要がある。

また、シティプロモーションについては、「シティプロモーション推進指針」をしっかり読んでいただき、その考えを今一度見直し、地域とのつながりを大切にしてほしい。シティプロモーションは外部に開くのではなく、まずはまちのなかで暮らす市民がこのまちに暮らせてよかったと思っただけのよう組織全体で共有しあえるように今後色々な研修等に参加してほしい。

座長： 転出する人の理由については、アンケート結果等である程度理解できてきているが、次は尼崎が好きでずっと住み続けている人の調査をしてほしい。そこを狙って働きかける必要がある。狙いを定める必要がある。例えば、近畿大学はPR面で成功しており、参考に値する。

今年度は市制100周年として、尼崎市が非常に注目されるチャンスOfYearであり、定住・転入の促進に向けて、本市の魅力や取組をいかに有効的・積極的に発信していけるのかが問われる1年になると考えている。

他にご意見等がなければ、ここで、本日のひと咲きまち咲きあまがさき創生本部を終了とする。

以 上